



コロナ禍における部署をこえた応援体制 ～看護部の取り組み～

看護部長 たなか まなみ
田中 真美

当院は、重症患者を収容する「重症管理指定医療機関」です。救急医療と両立をはかりコロナ関連部署を病院全体で支えていくという病院の方針があります。コロナ禍において、患者さんの受け入れ体制をどのように整えるかが喫緊の課題です。

看護部においても、部署をこえて全ての部署から応援体制をとり対応してきました。重症コロナ患者の看護においては、呼吸循環救命管理、他患者さんへの感染予防、職員の安全を守る感染対策等通常の1.5～2倍のマンパワーが必要となります。

ICU 看護師マンパワー確保対策として、一般病棟各部署のICU勤務経験者をリストアップし、部署全体の状況を鑑みながら応援看護師として必要人員に勤務調整しました。

一般病棟でのクラスター対応時にはスタッフも濃厚接触者となり、就業制限がかかる中の人員確保には大変苦慮しました。しかし、他部門、他職種の協力のもと、濃厚接触者で無症状者の場合は抗原定量検査で陰性を確認しながらの出勤対応や、休日勤務への勤務変更による対応で繋ぐことができました。これらのことを可能にしているのは、日頃から各部門、各部署が協力しあえる組織風土が根底にあるからこそと思っています。

医療現場で看護職は、自身の感染の不安や自らが媒介者となって身近な人に感染させてしまうのではないかと懸念を抱き、専門職としての責任や使命感で葛藤しながらも最善を尽くし看護業務に当たっています。ひきつぎご支援、ご協力の程よろしくお願い致します。



コロナ禍で奮闘する看護師、医療・ケア現場の様子

島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

2022年10月15日～11月14日 対象者: 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
9/1(木)～ 11/30(水)	令和4年度 第2回肝臓病教室・家族支援講座	肝疾患相談・支援センター ホームページ上での動画配信	一般 医療	島根大学医学部附属病院 肝疾患相談・支援センター
10/16(日) 14:00～15:30	第17回 脳卒中市民公開講座 防ごう!脳卒中	ゼブラ棟2F	一般	日本脳卒中協会島根県支部 島根大学医学部附属病院 脳神経外科
11/4(金) 18:00～19:20	一緒に考えよう「HBOC(遺伝性乳がん卵巣がん症候群)」 医療における大切なこと	みらい棟4階 ギャラクシー ※ZOOMによる同時配信あり (当院職員以外の方は原則ZOOM)	医療 本学	島根大学医学部附属病院 後援 島根県

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



NEWS



CONTENTS

- ・新型コロナウイルス感染症(COVID-19)を「災害」ととらえた病院機能維持対策
- ・当院の新型コロナウイルス感染症対策
- ・コロナ禍における部署をこえた応援体制～看護部の取り組み～
- ・研修会・講演会・セミナー開催情報



新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) を「災害」ととらえた病院機能維持対策

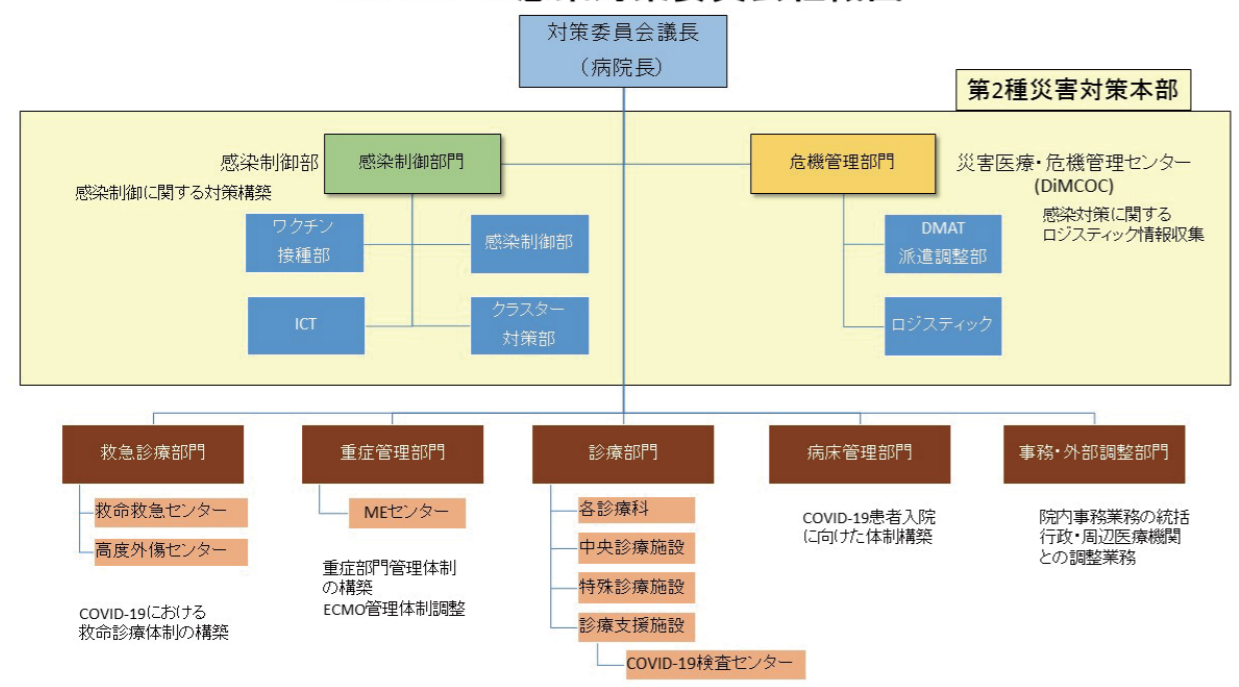
災害医療・危機管理センター センター長 **わたなべ ひろあき**
渡部 広明

新型コロナウイルス感染症は第7波に入り、依然として多くの患者さんが島根県内で加療されています。こうした状況は多くの医療機関や高齢者施設、障がい者施設などへも大きな影響を与えており、感染拡大中のコロナ対応と共に通常医療提供の維持に努める必要があります。

新興感染症のパンデミックはある種の「災害」と認識されており、この度の日本 DMAT 活動要領改定により DMAT 業務に新興感染症対策業務が盛り込まれるなど、災害としての対応の必要性が指摘されています。当院ではコロナ禍第1波の時より、これを災害と見なし対応をしてきました。院内の COVID-19 対策委員会の組織体制を感染制御部と災害医療・危機管理センターの2つを主軸として構築(図)し、院内感染の発生の迅速な把握と感染拡大処置、院内への迅速な情報提供、必要資機材調達、医療現場のニーズ把握と支援など災害に準じた対応を行っています。また、日本 DMAT の新たな役割となったパンデミック災害に対しても、島根県からの要請に応じ DMAT 派遣を行い、医療機関、高齢者施設などへの支援を行っています。

いつ終わるともしれないパンデミックですが、これを災害ととらえて病院が動くことが日常医療の維持に大きく貢献しています。引き続き通常医療とコロナ医療の両者を維持できるよう取り組んで参ります。

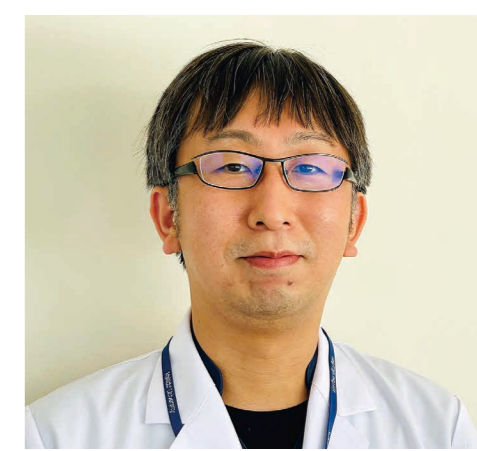
COVID-19感染対策委員会組織図



当院の新型コロナウイルス感染症対策

感染制御部 副部長 **はだの よしろう**
羽田野 義郎

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) を今後、どのように扱うかというのは議論がなされているところです。医療の現場では、2類相当から外れたからといって疾患が消えてなくなるわけでもなく、感染対策を行わなくなるとクラスターが多発するため、院内感染対策を止めてよいという事ではありません。今後も感染者数はそこまで減少することなく一定数発生し、医療に負荷がかかる状況は続くことが予想されています。医療機関としては、引き続きの感染対策の努力、工夫に取り組んで参ります。



当院では、入院前の抗原定量検査、入院中の手指衛生およびマスク着用(何らかの理由で着用できない方は除く)にご協力いただいています。入院前の抗原定量検査は、なるべく入院直近の検査をお願いしております。感染後の潜伏期間の関係で検査受験時点は陰性でも、数日後(入院後)に陽性になる場合があります。陰性確認後も、入院日まで3密や普段食事をする人以外の方々と食事の避ける(マスクが外れる状況避ける)など、感染リスク行動を避けるようご協力をいただけますと幸いです。

人々の往来の制限が解除された今年の冬は、COVID-19とインフルエンザの2つの感染症が流行する可能性が高いと言われています。このため、手指衛生、マスク着用に加えワクチン接種が重要となります。現に南半球のオーストラリアではここ5年で最も多い感染者数です。COVID-19のワクチンに注目は集まりますが、インフルエンザワクチンも接種していただき、冬に備えていただきたいと思います。

問い合わせ先 **感染制御部 TEL:0853-20-2483**



島大病院ニュース 2022年10月

お知らせ

带状疱疹ワクチン接種を開始!!

皮膚科 講師 にいほら ひろゆき
新原 寛之

本邦では80歳までに約3人に1人が带状疱疹を発症し、発症患者の約7割が50歳以上です。抗ヘルペス剤を投与するも、50歳以上の患者の約2割が带状疱疹後神経痛を合併し、皮膚症状が治まった後も長期間痛みを悩まされています。

2014年10月に小児水痘ワクチンが定期接種化されて以降、水痘の流行が激減し、高齢者が免疫ブースター効果を得る機会が減少していることから、今後の高齢化に加えた発症増加が予想されています。

带状疱疹に対する細胞性免疫(水痘皮内反応)、液性免疫(水痘带状疱疹ウイルス特異的抗体価)はともに加齢に伴って低下する傾向がみられますが、水痘生ワクチン接種でそれらの上昇が可能となります。海外からは、水痘生ワクチン接種群ではプラセボ群と比べて、带状疱疹の発生率が51.3%減少、带状疱疹後神経痛の発生率も66.5%減少し、带状疱疹の重症度も61.1%低下したと報告されています。

本邦において2016年3月より、水痘生ワクチンが高齢者の带状疱疹予防目的で使用できるようになりました。

有効性の高い生ワクチンですが、免疫抑制状態では禁忌となっているので、その場合不活化ワクチンを使用できます。生ワクチンと不活化ワクチンとの違いを表にまとめてます。

当科では従来の生ワクチンに加え、2022年10月より不活化ワクチンを使用可能となりますのでご相談ください。



	乾燥弱毒生水痘ワクチン (ビケン®)	带状疱疹不活化ワクチン (シングリックス®)
ワクチン種類	生ワクチン	不活化ワクチン
適用年齢	50歳以上	50歳以上
接種方法/回数	皮下注射/1回	筋肉注射/2回
接種間隔	—	2か月間隔で2回接種
持続期間	5年で効果減弱	8年後で84.0%の有効率
費用(1回につき)	¥10,600	¥22,330
接種不適当者	ステロイド・免疫抑制剤治療、抗がん剤治療など免疫抑制状態の方	左記の不適当者はなし
副反応	接種部位の痛み、腫脹、発赤 ※3日~7日で消失	接種部位の痛み、腫脹、発赤、筋肉痛、倦怠感、頭痛 ※3日~7日で消失 ※水痘ワクチンより副反応が強くなる可能性あり

問合せ先 皮膚科外来 TEL: 0853-20-2382



2022年10月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2022年10月

ご報告

がん遺伝子パネル検査について

がんゲノム医療センター センター長 いそべ たけし
儀部 威 なかも みか
中尾 美香

2019年6月に「がん遺伝子パネル検査」が保険適用となり3年が経過しました。当院は「がんゲノム医療連携病院」として、がん遺伝子パネル検査を行っています。

検査対象は、標準治療が終了した(あるいは終了見込み)固形がん、標準治療のない希少がんや原発不明がん患者のうち、全身状態の良い方になります。がん遺伝子パネル検査では、患者自身のがん細胞あるいは血液を用いて、がん細胞の遺伝子の変化の有無を確認します。検査結果が判明するまでに約1ヶ月かかり、得られた結果を元に多職種からなる会議で治療方針を検討します。提案される治療方針の中には治験や臨床試験が含まれる場合があり、希望に応じて実施医療機関へ紹介することも可能です。一方、現状ではがん遺伝子パネル検査の結果が治療に結びつく可能性は低く、がん発症の原因遺伝子が特定できても新たな治療法を提案できない場合も多くあります。全国では年間約1万人の固形がん患者がこの検査を受けており、当院ではこれまで約90症例の検査を行い、実際に提案された治療を開始できた方は約10%です。

今後がんゲノム医療に関する最新の情報をお届けしますのでよろしくお願いたします。地域医療連携センターを通じて検査紹介も適宜受け付けておりますので、当センター HP (<https://www.shimane-cgmc.jp/>) をご参照ください。

問合せ先 がんゲノム医療センター TEL: 0853-88-3053



2022年10月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2022年10月

お知らせ



生体情報・RI実験部門の紹介と エーラス・ダンロス症候群(EDS)についての研究

総合科学研究支援センター 生体情報・RI実験部門 教授 まつもと けんいち
松本 健一

生体情報・RI実験部門では、生命科学研究で欠くことのできない電子顕微鏡、共焦点レーザー顕微鏡、質量分析計、DNAシーケンサー等の大型先端機器を研究者が共同利用できるように管理・運営を行っています。一部の機器では、部門員による受託測定も実施しています。また、非密封放射性物質を使用できるRI実験施設、遺伝子組換え微生物や病原体微生物を用いた実験が可能なP2実験室、P3実験室の管理・運営も行っています。部門員一同、利用者の研究や教育が円滑にできるようにサポートしています。



ここでは、当部門にある大型先端機器のうちの一つ、質量分析計(写真)を用いた我々の研究を紹介します。対象疾患はエーラス・ダンロス症候群(EDS)で、皮膚、血管、関節等の結合組織の異常によって、関節可動性亢進、皮膚過伸展、易出血性等の症状が見られます。これまでに14のタイプに分類され、原因遺伝子としてコラーゲンやコラーゲン修飾遺伝子等が同定されています。1つのタイプである類古典型EDS(cIEDS)の原因遺伝子は、細胞外マトリックスの一つのテネイシンX(TNX)です。我々の研究室では、質量分析計を用いた血清型TNXの測定法の開発に成功し、cIEDSの診断に応用できるよう準備をすすめています。

今後もEDSに関する研究を続けて参りますので、共同研究を御希望の方はぜひお問合せ下さい。

問合せ先 総合科学研究支援センター 生体情報・RI実験部門 TEL: 0853-20-2248



2022年10月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2022年10月

ご報告



病棟の子どもたちと 花火と夏祭りをしました!

C病棟6階 看護師長 ながた りか
永田 里佳
病棟保育士 つばき あつみ
椿 敦美
とうま まいこ
藤間 麻衣子

入院している子どもたちは、窓から外をみながら「外で遊びたいな」「散歩に行きたいな」と願っています。中には、一か月以上も外に出ることができずに、治療や検査を頑張っている長期入院中のお子さんもいます。

花火の案内をすると、「本当に?どこですか?」と心待ちにしてくれました。手術目的で入院した年少児は、突然の病院環境に慣れることができずに泣いたり、母親にイライラをぶついたりしていましたが、花火当日はグラウンドを走り回り、気持ちを発散していました。子ども達は「外に出られてうれしかった」「みんなで楽しく花火が楽しめてよかった」、ご家族からは「子どもの楽しそうな顔が見られてよかった」「久々に外の空気が吸えてよかった」「子どもにとって辛く大変な入院生活の中、花火ができ、親子ともども心が元気になった」など、うれしい声がたくさん聞かれました。

別の日には、医学部学生キンダーフロイント部の協力のもと、夏まつりを開催しました。

子ども達と学生がオンラインで繋がって企画から一緒に進め、看板・お金・お財布作り、受付や店番も担当しました。病棟スタッフもお客さんになり、かわいい子ども達の案内で縁日を一緒に楽しみました。医学部学生は、画面を通して楽しい縁日企画の雰囲気を感じることができ、病棟で直接手伝いができる日が早く来ることを祈っていました。

来年こそ、コロナを気にせずに思いっきり楽しめたらいいな、と感じた2日間でした。



2022年10月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





お知らせ

島大病院ニュース 2022年10月

医療費後払いクレジットサービス 「待たずにラク〜だ」

医療サービス課 係長 高村 和弘
たかむら かずひろ

2022年9月1日(木)より、新たに医療費後払いクレジットサービス「待たずにラク〜だ」のサービスを開始しました。

「待たずにラク〜だ」は、ご利用を希望される患者さんが事前にスマホもしくはパソコンで利用登録を行い、受診時に再来受付機で後払いを選択すると、受診後は受診票を専用窓口(写真1)に提出するだけでそのまま帰宅いただけるサービスです。医療費は後日、事前に登録されたクレジットカードから自動決済されるため、受診時に会計及び支払待ちの列に並ぶ必要がなくなります。領収書・診療明細書は、次回来院時などに院内の専用発行機(写真2)からご自身で発行していただけます。

医療サービス課では、外来患者さんの増加に伴い、会計窓口の混雑や待ち時間の緩和・解消が課題となっていました。今回の後払いクレジットサービスの導入により、待ち時間の短縮化および支払方法の多様化を求める患者さんのニーズにお応えすることができます。また、コロナ禍での三密回避やキャッシュレス決済による感染リスクの軽減にも効果が期待できます。

現在ご利用いただけるのは外来診察を受けられる方のみですが、今後の利用拡大に伴い会計を待つ患者数が減少することで、その他すべての患者さんにもメリットとなります。

医療サービス課では、今後も患者さんの多様なニーズにお応えできるよう、サービス向上に努めてまいります。

島根大学医学部附属病院
「医療費後払いクレジットサービスのご案内」

会計の待ち時間をゼロに!

待たずにラク〜だ

診察が終わったら少しでも早く帰りたい…
「待たずにラク〜だ」は、医療費を後払いにすることで、会計を待たずにすぐにお帰りができるサービスです。

登録 ラク〜だ
下記利用登録サイトで、診察券番号やお手持ちのクレジットカード情報を登録するだけ。(無料)

通院 ラク〜だ
会計待ちがないので、お身体への負担や、待ち時間も軽減。

支払い ラク〜だ
かかった医療費は後日メールでお知らせ。お支払いはクレジットカードで安心。

登録 & 利用料 無料

写真1 写真2

本サービスのご利用には事前登録(無料)が必要です。

診察前のご登録で、本日の会計からご利用いただけます。

待たずにラク〜だ ご利用登録サイト

<https://s6.medicalpay.jp/shimane/new/>

※ご登録から完了まで、安全のためご自身の接続環境に切り替えてください。(wi-fiオフ等)

問合せ先 医療サービス課 収納債権業務担当 TEL: 0853-20-2072



2022年10月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



ご報告

島大病院ニュース 2022年10月

民間療法について

臨床研究センター センター長 大野 智
おおの さとし

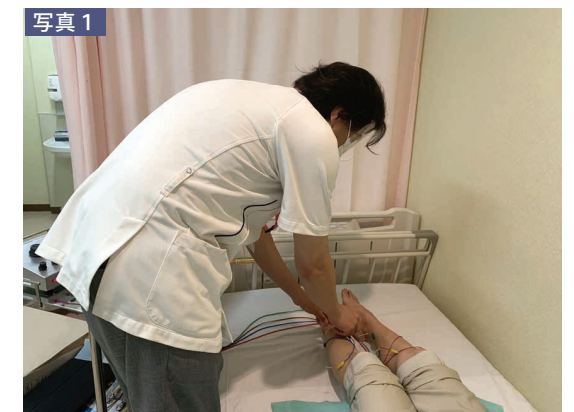
多くの患者さんが健康食品などの民間療法に興味関心を持っていることが指摘されています。そのような現状を踏まえ厚生労働省など国の機関が、玉石混交とされる民間療法について、科学的検証(臨床研究)の支援や正確な情報発信に取り組んでいることをご存知でしょうか?

臨床研究の支援のひとつに日本医療研究開発機構(AMED)の「統合医療」に係る医療の質向上・科学的根拠収集研究事業があります。当院はAMEDの支援を受け、抗癌剤治療による末梢神経障害に対する鍼治療の効果を検証するランダム化比較試験に取り組んでいます(写真1)。

正確な情報発信に関する取り組みとして厚生労働省の「統合医療」に係る情報発信等推進事業があります。島根大学は当該事業の実施者として選定されており「統合医療」情報発信サイト[eJIM(イージム)](<https://www.ejim.ncgg.go.jp/>)の作成に取り組んでいます(写真2)。

ただし民間療法にも注意点があります(図1)。あらゆる民間療法で健康被害が報告されており、また実施を避けるべき病態(いわゆる禁忌)の人もいます。また民間療法は全額自己負担ですので経済被害は無視できません。さらに標準治療を適切なタイミングで受けなかった場合、得られるはずだった利益(治療効果)の機会損失にも繋がります。患者さんが被害に遭わないためには、医療者がオープンなコミュニケーションを図ることが重要です。

問合せ先 臨床研究センター TEL: 0853-88-3057



鍼治療の臨床試験



「統合医療」情報発信サイト[eJIM]

図1 民間療法の注意点

- ①健康被害**
 - ・「自然・天然」は安全を意味していない
 - ・補完代替療法にも健康被害のリスクがある
- ②経済被害**
 - ・契約・請求トラブルに注意
 - ・高額な治療ほど効果が高いわけではない
- ③機会損失**
 - ・標準治療を否定しているものには近づかない



2022年10月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2022年10月

お知らせ

展示の様子



市民ギャラリー

「松江水郷祭 湖上花火大会」の作品を展示中です!

総務課

当院では、B病棟1階に「市民ギャラリー」を設けており、市民の皆さまが無料で展示していただけるスペースとして、多くの方にご利用いただいております。

8月25日から10月25日までは、増原公夫さんが撮られた松江水郷祭の写真11点を展示しています。

3年振りに開催された松江水郷祭の花火の写真です。展示された途端、患者さんだけでなく、職員からも「すごい!」「きれいー!」「気分が上がる!!」「水郷祭行った?」とたくさんの声が聞こえました。

増原さんは中国文教にお勤めで普段から医学部・病院設備の保守の仕事がされています。コロナ禍で病院への出入りも制限があり、市民ギャラリーの展示の空きが続いていた中、増原さんからお声かけいただき、作品からたくさんの元気をいただいております。

皆さまぜひお立ち寄りいただき、作品をご覧ください。



増原 公夫さん

市民ギャラリー展示についてのお問合せ先

総務課企画調査係

TEL 0853-20-2018

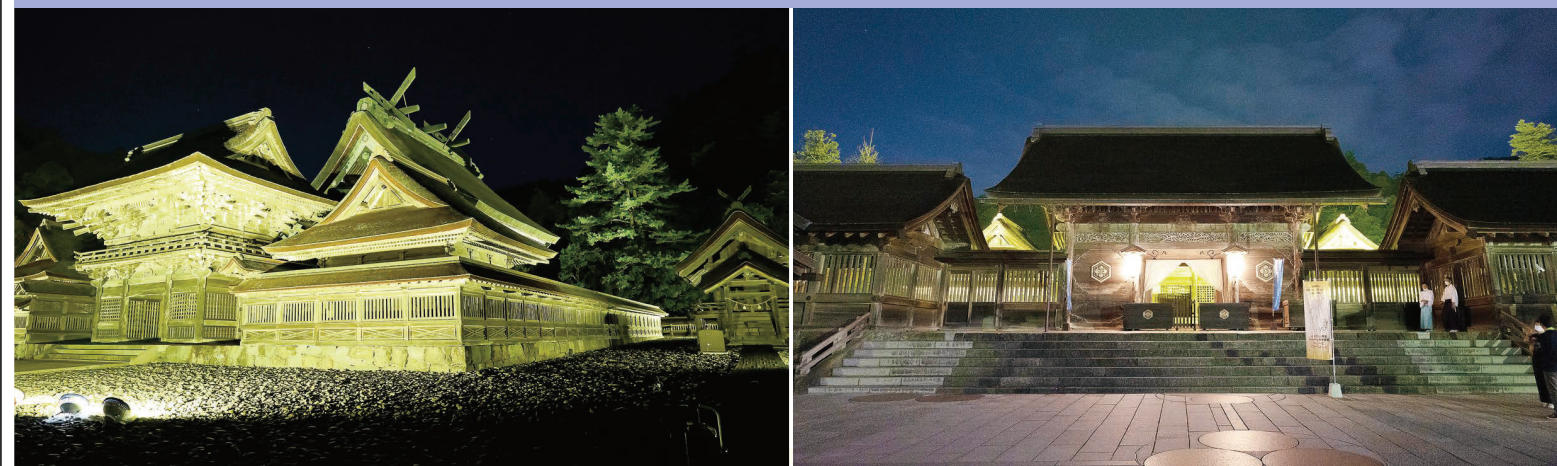
お知らせ
島大病院ニュース

2022年10月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2022年10月

ご報告



世界小児がん啓発キャンペーンに参加しました

チャイルドライフスペシャリスト

小児科 教授

くろさき

黒崎

たけたに

竹谷

あかね

たけし

健

9月は小児がん啓発月間です。

世界小児がん啓発キャンペーン「Global Gold September Campaign」では、毎年9月に世界各地の建築物が、小児がんのシンボルカラー(ゴールド)でライトアップされます。今年から、当院小児科でも、島根県、松江市、出雲市、島根大学建築デザイン学科のご協力により松江城と出雲大社をゴールドカラーにするキャンペーンに参加しました。中秋の名月の前日で、ライトアップされた出雲大社は神々しく輝いていました。また、金色に輝く松江城も見に来た人々を惹きつけてくれました。



ライトアップの目的は2つあります。

1つ目は、小児がんの子どもたちとご家族を癒すことです。外来治療している子どもやご家族も来てくれました。「すごく楽しかった」「とてもきれいで見に来てよかったです」と、嬉しそうに話してくれました。

2つ目の目的は、小児がんの啓発です。小児がんの子どもたちは、日本全国で年間2,500人でがん患者さん全体の0.2%程度と非常に少ないですが、病気の数が多いことが報告されています。成人に比べて治癒する可能性が高いですが、難治性のがんが存在すること、治っても合併症や後遺症を持って生活することが少なくないこと、治療体制が整っていないことなどの問題点があります。このライトアップをきっかけに、多くの人小児がんについて知って頂き、ひとりひとりが小児がんに対して少しでもできることを考えて行動していただくと嬉しいです。

※ゴールドリボンは、小児がんに対する認識を高めるための世界共通のシンボルです。最も貴重な宝物としての「ゴールド」、子どもたちに輝かしい「光を当てる」という意味がこめられています。

ご報告
島大病院ニュース

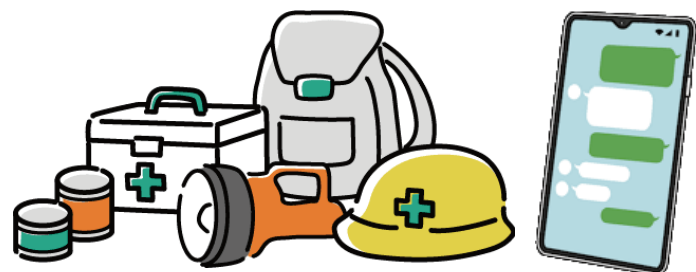
2022年10月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2022年10月

お知らせ



LINE公式アカウントを利用した 1型糖尿病患者さんに対する災害対策

内分泌代謝内科 講師 もりた みわ
守田 美和 (DMAT隊員)

1型糖尿病患者さんに対する災害対策として、「LINE公式アカウント」を開設しました。1型糖尿病患者さんやそのご家族を対象に、非災害時には災害の備えについての情報提供を行い、災害時にはインスリンの入手場所や問い合わせ先などを直接お送りできるようにしております。

糖尿病の中でも1型糖尿病はインスリン注射が途切れることは死につながり、災害においても「災害関連死」と言われ、未解決問題として残されています。これまでに、私達は災害対策については、糖尿病教室(院内・出雲ケールブルテレビ・リーフレット)や診察時に説明を行っておりますが、それだけでは対策は万全とは言えません。今回の取り組みにより、実際の災害時の混乱の中でも患者さんの被災状況の把握やインスリン不足の患者さんに速やかにインスリンをお渡しすること、状況にあった情報提供を行うことが可能となります。患者さんからは、「こういうのを待っていた、災害が起きたらどうしようという不安が少し減った」と好評価を頂いております。

現在の対象は当院の1型糖尿病患者さんのみですが、院外や対象疾患の拡大を進める予定です。

問合せ先 内科学講座 内科学第一医局 TEL: 0853-20-2183

お知らせ
島大病院ニュース

2022年10月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2022年10月

ご報告

Webinarを開催しています!!

地域医療支援学講座 助教 ほった ゆきえ
堀田 優希江

地域医療支援学講座では島根県の医師不足解消、地域医療の課題解決に向けた取り組みを行っています。その中でも医学生が地域医療に興味を持ち、貢献して貰えるようにキャリアの一考として『Career Webinar』と、地域医療への興味・理解を深めるために『地域医療 Webinar』を毎月行っています。

『Career Webinar』の講師は、大学病院の若手医師からベテラン医師まで、基礎医学系講座から臨床医学系講座、特別診療部門など様々な分野からお招きしています。これまでの経歴や各診療科の特徴について興味深いお話をさせていただいております。『Career Webinar』ではご講演いただける講師の先生方を随時募集しております。ご推薦でも構いません。是非ともよろしくお願ひします。

『地域医療 Webinar』では島根県内外問わず全国でご活躍している医師、看護師、救急救命士などの地域医療を支えている方々から、地域医療から災害医療の分野まで幅広い講師からお話しいただいております。夕方の時間に開催しており、学生だけでなく医療関係者の参加もあり、学びの多い講演となっています。

ホームページやSNS (Facebook、Instagram、LINE) を通じて情報発信しておりますのでフォローをよろしくお願ひします。

興味のある方は、career@med.shimane-u.ac.jp までぜひご連絡ください。

島根大学医学部 地域医療支援学講座公式SNSにて情報発信しています!



地域医療Webinarの様子①



地域医療Webinarの様子②



Career Webinarの様子

ご報告
島大病院ニュース

2022年10月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





9月17日は世界患者安全の日です

医療安全管理部 教授 深見 達弥 ふかみ たつや

患者安全を促進することへの人々の意識・関心を高め、国際的な理解を深めるとともに、加盟国間の連携や行動に取り組むことを目的として、2019年の世界保健機関 WHO の総会において、9月17日を世界患者安全の日とすることが制定されました。2022年のテーマは“安全な薬剤使用”、スローガンは“有害事象のない薬物療法”です。

当院でも普及活動の一環として椎名浩昭病院長と医療安全管理部スタッフが、「世界患者安全の日」テーマカラーのオレンジ色のTシャツを着用しました。また、院内にポスターを掲示し、「世界患者安全の日」へのご協力を呼びかけました。

これからも、医療制度を利用する全ての皆さまのリスク軽減、患者安全文化の醸成のため普及活動をして参ります。

